



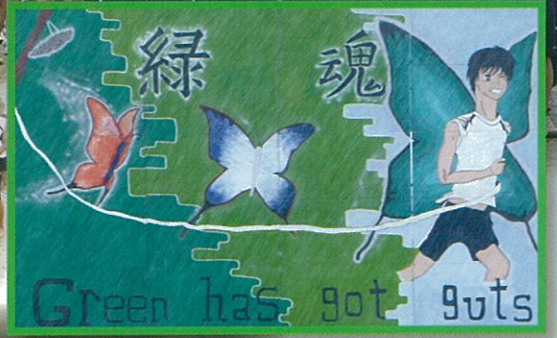
じょうほう 織部

平成25年度

第1号

10月1日発行
PTA広報委員会

大東高校PTA会報



第65回 織部祭



みんなが輪っか

~いつのぼせーかい? 今んごだねか!~



7月下旬に雲南市と交流のある韓国慶尚北道清道郡のモゲ中学校の3年生と1年生の男の子ふたりのホストファミリーとして我が家で3日間受け入れました。韓国語は「アニョンハセヨ」「カムサハムニダ」位しかわからないので、コミュニケーションがうまくとれるか家族一同心配していました。それでも、高校2年生の次男なら同世代として何とかしてくれるのではと期待していましたが、部活動で隠岐遠征になったことから、急きょ大学生の長男を呼び寄せ、ハンゲルで手書きの歓迎看板を作って、妻と長男と私の3人で出迎えました。

驚いたことに中学3年生のカン・ミョンジュン君は日本語が通じ、お蔭でコミュニケーションの心配をすることなく過ごすことができ、楽しい3日間となりました。

旅立ちの朝に、私の母が二人に「また来てね」と声をかけると、ミョンジュン君が「ぜひ韓国に来てください。その時は僕が案内しますから」と返答した言葉は心に響きました。準備されていた言葉ではなく、とっさに出てきた言葉であったので、なおさら嬉しく感じ、その一言で、家族みんながホストファミリーを引き受けて良かったと思うと同時に、彼らにも喜んでもらえたのかなあとホッとした瞬間でした。

現在韓国とは国レベルで難しい情勢になっていますが、こうした人同士の交流の積み重ねによりお互いを理解し、信頼関係を築くことが大切であり、その為には、会話力が必要だと改めて感じました。

今の高校生が社会の第一線で生きて行く時代は、今以上に国際化が進むでしょうから、まずは世界の多くで通じる英語での会話力は、付けてもらいたいチカラのひとつです。

最後になりますが、PTA会員の皆様にはご多用のこととは存じますが、PTA活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

総務委員会活動報告

総務委員長 本常 明子

総務委員会では、2回の会を開き、織部祭（8月29日）でのカレー作りと販売をすることに決定しました。

前年度に引き続いてのカレー作りでしたが、昨年は200食がすぐに完売し、食べるのできなかった生徒さんが沢山いたということで、今回は倍の400食を用意しました。販売スタートと同時に長い行列ができましたが、約300食を販売し、100食分があまる結果となりました。完売はできませんでしたが、先生方と保護者の皆様のご協力のもと、無事にカレー作りを終えたこと、心より感謝しております。

今回平日にもかかわらず、総務委員ほとんどの方に参加して頂き、（ご夫婦、ご家族で参加して頂いたご家庭もありました。）又、委員以外の方にもお手伝い頂き、ありがとうございました。食材を調達して頂いた森山様、紙面を借りて、お礼申し上げます。大変助かりました。

織部祭に参加し、不安と緊張でスタートしましたが、皆様が一生涯懸命動いてくださり、最後は私自身とても感動し、温かい気持ちで帰途につきました。「協力」…よく使う言葉ですが、子どもたちも日々協力したりしてもらったりし、人と関わる楽しさ、大切さを沢山体験してほしいな、と思った一日でした。



平成25年度PTA研修会について

研修委員長 西 嘉直

大東高校PTAでは、会員相互の研修のため、毎年1回講演会を開催しています。PTA研修委員会では、7月10日に第1回委員会を開催し、今年度の研修内容を話し合いました。今回は大東高校の卒業生であり、開星高校の野球部監督としてご活躍になった野々村直通先生をお迎えし、貴重な体験についてお話しいただくこととしました。

野々村先生は、甲子園での発言だけが有名になった感がありますが、ご著書を読むと、信念を貫く強さ、一人で立ち向かう勇氣、身を捨ててかかることの大切さ、などを教えていただける気がします。直接先生の声をお聴きし、日々を生きる姿勢などについて振り返るきっかけにしたいと思います。日にちは11月23日の午後を予定しています。開始時刻等の詳細は改めてお知らせします。多数のご参加をお待ちしていますので、お誘いあわせの上ご来場ください。

なお、野々村先生には、「やくざ監督と呼ばれて」などのご著書があります。興味のある方は事前にお読みいただくと、講演の内容がより一層ご理解いただけると思います。

保護者の皆様には、平素より本校のPTA活動に物心ともにご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。織部祭直前の8月25日には、大東支部の保護者会約30名の方にグラウンド内外の除草や整備を行っていただき、きれいな環境で織部祭を迎えることができました。また、総務委員会の方には今年も文化祭初日にカレーライス400食分を作っていただき生徒や教職員、それに地域の方も一緒になって美味しくいただきました。お忙しいところお世話をいただき衷心より感謝申し上げます。

さて、私は本校に勤務して2年目になりますが、始業式や終業式でのメッセージができるだけ生徒に伝わるように、内容を1文字に凝縮してそれを示しながら話すことにしています。今年度は1学期の始業式、終業式共に「攻」でした。攻めずに守っていた方が無難かもしれませんが、無難からは次の展望が見えてきません。積極的に、主体的に攻めるからこそ、たとえ失敗したとしても次に何を成すべきか課題が見えてきます。今夏、本校の1年生と3年生の男女6人が4泊5日(車中泊2日)の日程で「東日本大震災復興ボランティア」に参加しました。「攻」める姿勢のひとつであり、大変頼もしく思いました。

2学期の始業式は、2つの思いを込めて「質」にしました。1つは、今年の織部祭のテーマは「みんなで輪っしょい!~いつのぼせーかい?今んどだねか!~」でしたが、仲間との話し合いや行動過程において「異質の存在や意見」も尊重しながら「輪」を築いてほしいという思い。もう1つは、1年で最も長い2学期を「学習上の質」「生活上の質」「部活動上の質」を更に高めて、充実した学期にしてほしいという思いからでした。

さて、実りの秋を経験した今学期の終業式にはどんな思いを伝えましょうか。

育成委員会活動報告

育成委員長 高尾 英也

平成25年度育成委員会の活動内容ですが、7月9日に先生及び各地区の育成委員の皆様にお集り頂き、第1回目の育成委員会を行いました。

協議内容は「大東高校における生徒の状況等」「夏祭り時のパトロール」についてでした。

まず、毎年行われる夏祭りのパトロールについてですが委員の皆様にご担当地区を決めさせて頂き、四地区に分かれパトロールをして頂きました。パトロール地区は次の通りです。「えびす祭」「二十三夜祭」「れんげ祭」「七夕祭」の四地区です。お祭りに参加している生徒も少なく、特に問題もなく良かったと思います。先生方、委員の皆様にはお忙しい中大変お世話になり有難うございました。

次に、生徒の状況「あいさつ」についてですが、大東高校の生徒は非常に気持ちの良いあいさつをしてくれます。ですが中には、校区内に入ってからあいさつスイッチが入り、まるで校則を守るかのようにあいさつをし始める生徒も見受けられるように思います。

あいさつは、コミュニケーションをとる上での第一歩。地域社会、家庭等でコミュニケーション不足が問われる中、あいさつを交わすことによって良い人間関係を築く上でも「あいさつをする意義」を考え直してもらえたら、あいさつスイッチの「オン・オフ」は無くなるのではと思ったところです。

最後になりますが、生徒たちがより良い学校生活が送れるように、育成委員としてしっかり勤めていきたいと思えます。今後とも宜しくお願い致します。



保護者として

広報委員長 鳥谷 史生

広報委員会の活動をする中で、「家庭のあり方」について考えてみました。

今の競争にあおられる日本社会の中で、子どもたちは、テストなどで常に評価され、友だちと比較されています。家庭内にも評価主義、管理主義が入りこんでいると思います。

家庭教育研究所の高橋愛子さんは「家庭は本来、命を育む場であり、家族が安心して暮らせる、やさしい雰囲気になった場所であればならない。」と書かれています。

一日中、学校という社会で過ごして帰ってくる子どもたちは、「家が一番いいな」と思ってくれているのでしょうか。

高橋さんによると、居心地のいい家とは、身も心もリラックスでき、ありのままの自分でいられ、自分を受け止めてくれる人がいる場所です。いのちの絆でつながっているのが家族です。

私もひとりの親として、我が子を丸ごと受け止めてやれるようになりたいですね。

家庭が子どもたちのリラックスできる場であってほしいとの思いを込めて、「じょうほう織部」の発行に携わっていかうと思います。

どうぞよろしくお願ひします。

部活動 ~保護者の想い~

美術部

保護者 山口由里子

講習会や高校美術展などに出品し、コンクールの締め切りが迫ると「ああ、どうしよう。」と嘆いていた日を懐かしく思います。学年で一人でしたが、先輩や後輩、先生方に恵まれ充実した3年間だったのではと思います。支えてくださった皆様、ありがとうございました。



吹奏楽部

保護者 高木 宣子

「目指せ金賞！」部員一丸となって練習してきました。結果は銀賞…県大会Aの部の壁は高く、悔し涙を流しました。

「いつも感謝を忘れない」をモットーに、コンクールや定期演奏会、地域行事に参加し、聞く度に成長を感じさせてくれました。来年の夏、更に成長した大東高サウンドを響かせてくれることを期待しています。

大好きな音楽、部長として一生懸命頑張った経験は将来に繋がる財産になったと思います。これからも素敵な音楽を奏でて欲しいですね。



自然科学部

保護者 板持 勉

今まで二つの部活を兼務していましたが、今年度更にこの自然科学部に入部し、忙しいながらも楽しく活動しています。

蛭やウーパールーパー等の飼育、熊の生態調査など色々な活動を通して、自然や生物とふれ合ういい体験ができました。

自然科学部研修会では、他校の生徒と一緒に夏泊りして交流を深め、楽しい思い出作りができました。これからも動植物を慈しむ心を大切に、高校生活を大いにエンジョイして欲しいものです。



茶道部

保護者 松浦 慎

今年度は、例年より活動が多いと聞きました。色々な場面で様々な人と一緒に活動することは良い勉強になります。茶道は地味な印象がありますが、他の部活動と比べても遜色のない歴史と奥深さがあります。

茶道で得た知識や立ち振る舞いは、これからの長い人生においてどこかで役立つことがあるかもしれません。経験は大きな財産です。これからもそんな財産を増やしていきましょう。



写真部

保護者 金森 幸治

この3年間、写真の展示がある時は、校内も校外も毎回見に出掛けました。特選をもらえた写真、入選した写真、そうではない写真どれも全部好きでした。撮りたいものが決まらず悩んでいても親からアドバイスできることは何もありませんでした。撮る前も撮る瞬間も、仕上げる過程も、一枚の作品として完成するまで努力した時間は、貴重な経験だったと思います。3年間、素敵な写真を見せてくれて、ありがとうございました。



生活科学部

保護者 井田 浩子

毎週ネットで調べてメニューを考え、限られた予算で人数分の料理を作る…メニューを考えるときは頭を悩ませていましたが、皆で作って皆で一緒に食べる、そんな経験は苦労を吹き飛ばす楽しい素敵なものだったのではないのでしょうか。それ以外にも、総体の激励や文化祭の出店のためのクッキー作り、全体研修会での他校の生徒との交流など、様々な経験ができました。3年生に向けてまだまだこれから新しい体験をたくさんして欲しいと思っています。



JRC部

保護者 山崎 英夫

高校より寄稿依頼があり、JRCについて今までの自分を思ってみた。JRC=ボランティア活動のイメージ。20代には会社のボランティアで企画・活動を行ったことが思い出されるJRの待合室、ホームの清掃、施設への慰問（一緒に遊ぶ、清掃）など、今になって思い出してみると、自分たちからの押し付け活動ではなかったか？

廻りの人を巻き込む為には、魅力ある企画をたてることが大切、活動を通じて人を動かすにはどうすれば良いか、人の心に響く内容・話し方など、高校生活で色々体得してほしい。

囲碁・将棋部

保護者 和久利 清治

毎週月曜日の帰りがいつもより遅いので、何をしているのかなと思って聞いたら、囲碁・将棋部の活動をしているということでした。大会には出ていないものの、2年生の女子2名でやっているということでした。そう言えば、いつぞや「ラ・メール」で、一般の方の指導を受けたというのを思い出しました。「出雲のイナズマ」を目標には言いませんが、「大東のイナズマ」ぐらいを目指して欲しいと思っています。



野球部

保護者 新田 誠

新チームになってから1年。ケガで出場できなかった秋。球春の到来を指折り数えた長い冬。思わぬ敗戦に言葉を失った春。それでもついに「最後の夏」は来た。願いは叶わなかったが、「本気」で野球に取り組み姿勢だけは十分に見せてもらった。目標は「甲子園」と言い聞かせつつも、自分の母校のユニフォームを着てグラウンドに立ってくれるだけでどれだけ嬉しかったか。「夢」を後輩へとつなぐ役割はしっかり果たしてくれたと思っている。



男子バレーボール部

保護者 山本 典男

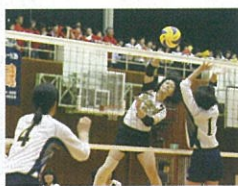
3年生の中国予選、対松江工業戦。セットオールの21対24。1点のミスも許されない状況から、全員で必死にボールをつなぎ、ついに逆転勝利。保護者みんなまで跳び上がりて歓喜したことが忘れられません。そして迎えた最後の総体。野球部の大声援を受け、1人1人がしっかりと役目を自覚し必死にプレーする姿に心うたれました。さまざまなシーンが次々と浮かびます。たくさんの感動を本当にありがとう。指導いただいた先生方に感謝し、みなさんの新しいステージでの活躍をみんな願っています。



女子バレーボール部

保護者 松林 孝之

3年生部員は、入学当初から3人しかいなく、現在の2年生部員の入部人数次第では「存続の危機」さえ危ぶまれたチームでした。ありがたいことに、沢山の後輩チームメイトに恵まれ、あっという間の3年間を全力で駆け抜けてくれました。8年ぶりのベスト8で「古豪復活」を遂げ、とても誇らしく感じました。これまで支えていただきました先生方はもちろん、保護者の皆様、先輩諸氏に感謝申し上げます。そして最後に…3人でよくがんばったね…ありがとう。



男子バドミントン部

保護者 小村 誠

「楽しんでやるのが一番だよ」と、言いながらも、期待して見守った試合。沢山の想い出が出来ました。中学校から、一緒に練習した仲間、高校からの仲間。共に支え合い、無事に3年間続けることが出来ました。チームワーク、笑顔が最高の仲間でした。先生、コーチ、先輩、保護者、沢山の方々に支えて頂き心から感謝しています。本当にありがとうございました。



女子バドミントン部

保護者 和久利 誓男

小中高と続けたバドミントン。必死で先輩についていった1年生、下級生がいよいよ母校校対抗戦にも出られる仲間と個人戦だけを戦ってきた2年生の秋、待望の1年生の入部で念願の学校対抗戦に出場できた3年生の県総体、いろんな思いの3年間だったと思います。今後、様々な「社会のコート」に立つことになるのですが、君一人で立っているのではなく、いつも周りで応援している人がいることを忘れないでください。おわりにこれまで多くの方々に支えられてきたことに感謝申し上げます。



剣道部 (男子)

保護者 佐藤 昌之

新チームになって、男子・女子共団体戦メンバー5名が揃わない状況の中、県総体に向け、個々に目標を掲げながら一生懸命稽古に励み臨んだ結果、女子チームは公式戦初勝利、一方で悔しさの残る試合等、色々な思いが詰まった大会となりました。結果はともあれ、懸命に稽古している姿、また堂々とした姿勢で試合をしている姿は美しく輝いており、成長を感じさせてくれました。これまでの経験を活かし、そして3年間ともに励んできた、仲間、先生に感謝の気持ちを忘れずに次の目標に向かって進んで欲しいと思います。最後に、これまで支えてくださった皆様方に感謝いたします。



剣道部 (女子)

保護者 柳楽 晃彦

思いもしなかった剣道部デビュー。先輩に教えられ、先生に鍛えられ、後輩につなぐ3年間。体力・精神力と得たものは、とても大きいと感じています。今年度、新体制になって念願女子団体戦、一勝を勝ちとることができました。これも、これまで支えて頂いた先生方、先輩保護者の温かい励まし、ご指導があったからこそ勝ちとることが出来ました。皆さん3年間ありがとうございました。そして後輩のみなさんの、今後の更なる活動を願っています。



卓球部

保護者 西村 純

男子9人、女子2人、計11人の只今全員2年生の卓球部です。みんながとても仲良く、楽しんで練習に取り組んでいます。先生、コーチのご指導を精一杯吸収しようと日々頑張っている姿をとても頼もしく思っています。このナイスな仲間たちを大切に、来年も頑張っていきたいと思います！先生、コーチ、保護者の皆様、どうぞ宜しくお願い致します。



空手道部 (男子)

保護者 植田 ルミ

「大東高校へ行って空手部に入る」と決めていた通り、入学後迷わず入部。宿敵を目標にし、勝つ為に試行錯誤しながら闘って来た3年間…。最後まで勝つことは出来なかったけれど、常に向上を求め精神に努めて来た日々は、決して無駄ではなかったと思います。主将を務めるようになり、様々な問題に悩みながらもやって来たのは、部員の皆さんや指導者の方々のおかげだからこそ、と感謝致します。武道から学んだ「道義の心」を忘れず、今後の人生にも活かして欲しいものです。今後の空手道部の更なる躍進を心より応援しています。ありがとうございました。



空手道部 (女子)

保護者 新田 愛子

入部した時は、めったに体験出来ないスポーツで面白そうだと思いました。お陰で親と一緒にこの世界を知ることが出来ました。よくOBの方が遊びに来てくださり、試合時には応援にかけつけたりと「絆のとても強い部」という印象があります。「道場」という場所がOBと現役部員との苦楽をわかちあえる言葉を越えた絆を強める繋がり場所になっているんですね。すばらしい伝統だと思います。今後も、更なる活躍に期待し、応援していこうと思います。監督、コーチ、先生、今後共宜しくお願い致します。



陸上競技部

保護者 石原 研

当初は高校に入って陸上をする予定でなかった者が突然の入部？3年生3人・1年生11人からの新スタートが始まる。入って間もない頃に大会が有り、走りに長いプランクのあった中で急に無理して走るものだから足を痛め、ろくな練習も出来なかった中での大会は残念な結果に終わりました。3年生が引退されてからは、1年生のみでの練習が続き、どのような練習内容でやっていったら良いのかと迷う日々。あれから1年を迎える中でみんな成長してきたと実感。1年生も加わりあと1年で終える2年生には悔いの残らない走りをして、部員みんなでもこれからは頑張り抜いていってほしいのとケガには気を付けて、更なる高みを目指してほしいと思います。



ソフトボール部

保護者 佐々木吉広

この3年間、試合を応援に行くのが楽しみでした。「インターハイ出場」という一つの目標に向かって皆が結束し、厳しい練習に耐え、県外遠征で少しずつ力を付けてきましたが、県総体2回戦で破れてしまいました。破れはしましたが、選手皆が声を掛けあい最後の最後まで諦めず粘り強い底力を見せたのは今までの練習で培った賜物で、あの場面を思い出すと胸が熱くなります。試合は勝ち負けですが、部活動を通してどんなに苦しくても3年間部活動を続けたことや、一つの目標に取り組んだこと、体力・精神面が鍛えられたことは大きな財産を得たと思います。この3年間の部活での経験がきっと今後の人生の糧となることでしょう。最後に、これまでお世話になった指導者の先生方、保護者の皆様、地域の皆様など支えて頂きました多くの方に感謝申し上げます。来年は、是非今年叶えられなかったインターハイに出場できることを願っています。



男子ソフトテニス部

保護者 安部 智博

高校生になり、縁あってテニスというスポーツと、そのスポーツを通して先輩、顧問の先生、同級生という人達に出会い、歩ませてもらった3年間でした。息子から様々な話を聞かされた時に、かけがえのない貴重な経験をし、少しずつ成長していくのが子を頼もしく感じたものです。3年生の総体予選は、3年間の部活動の集大成として、息子の成長したであろう姿とそのプレーぶりを見届けさせてもらいました。残念ながら勝利するという結果は残っていませんでしたが、息子とその仲間の3年間がつまんだその姿とプレーぶりは立派でした。特に自分たちペアが敗れた後、次のペアに精一杯声援を送るその姿にこみ上げるものがありました。ご指導いただきました息子が尊敬する顧問の先生、共に歩んできたテニス部の大好きな仲間たち、かつてよく導いてくださった先輩たち、本当にありがとうございました。



女子ソフトテニス部

保護者 小池 健一

初心者ばかりのスタートで、とまどいや不安もあったと思います。指導して下さった先生、指導者、先輩や陰で支えて下さったマネージャーなど多くの支えで子どもたちの成長をみさせていただけことに心から感謝申し上げます。今後もソフトテニス部の活躍を願ってます。



バスケットボール部

保護者 加藤 厚

「部員が少ない」昨年同様チームの課題でした。日々の練習では思う様な練習が出来ず、他校との練習試合も少なく悔しい思いをしたと思います。それでも今春には、1年生の入部に期待しつつ部員たち自ら厳しい練習メニューに取り組みました。総体では結果を出す事が出来なかったですが、試合に負けた悔しさ、自ら取り組んだ厳しい練習、バスケット部を通して沢山の財産を得たことと思います。支えて下さった方々に感謝しつつ今後の人生に生かしてほしいと思います。



サッカー同好会

保護者 内田 太

去年4月、入学したばかりの今の2年生8人が集まり、サッカー部をつくりたいという思いで活動を始め、12月に同好会として認められました。何も無いゼロからのスタートでしたが、その行動力には驚かされました。今年、新入生メンバー3人が加わり現在11名で川上先生のご指導のもと、毎日厳しい練習に励んでいます。ギリギリの人数での活動なので、ケガなどないことを願いながら、応援していきたいと思っています。





第66回 織部祭



織部祭総集編

